

第12回学術大会抄録

2 本学歯科技工士学科卒業生の離職について 第Ⅱ報
—卒業後3年までの離職状況と離職理由—

相馬 泰栄

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 離職, 職場環境, 支援体制

はじめに

平成24年10月に厚生労働省は入社後、3年以内の離職率について、業種別割合の調査結果を公表した。その中で医療・福祉関係の離職率は38.6%であった。また、新潟県内の離職率について、平成25年11月に新潟労働局職業安定課は高校や大学などを卒業して県内に就職した人の3年以内の離職率を発表した。それによると短大などの離職率は、38.1%で、前年度より4.0ポイント増加した。その中で、医療・福祉関係の離職率は30.6%であった。本学を平成19年から21年に卒業した170名の卒業後1年と卒業後3年での調査結果を比較したので報告する。

対象および方法

対象：本科を平成19から21年3月に卒業した170名を対象に卒業後3年以内の離職（離業）について調査を行った。

調査方法：170名の卒業生には電話による質問形式で実施し、平成19年の卒業生から87.3、平成20年の卒業生から80.0%、平成21年の卒業生から88.0%の回答を得た。

検討内容：卒業後1年と3年以内の離職率と離職理由ならびに歯科技工士からの離業者の復職状況について、検討した。

結果

本学科の卒業生170名の内、147名（86.5%）の学生が歯科技工士として就職した。卒業後1年以内での離職者は24名（16.3%）に対し、卒業後3年までの離職者は延べ52名（35.4%）であった。卒業後1年以内では男女による離職率に差は無かったが、その後、2～3年の間に女性の離職率が男性より6ポイント高

くなった。

卒業後1年での離職理由では技術不足や歯科技工が向いていなかったが約58%、長時間労働や人間関係の悩みが約29%、その他が約13%であったのに対し、卒業後2～3年での離職理由は技術不足や歯科技工が向いていなかったが約18%、長時間労働や人間関係の悩みが約43%、その他の離職理由は約18%であった。また、その他の理由での離職者は全員が女性で、5名中3名は結婚や育児によるものであった。

まとめ

卒業後1年以内の離職理由は技術不足や歯科技工が向いていなかったが約58%と半数以上を占めたのに対し、その後の2～3年では技術不足や歯科技工が向いていなかったは約18%と大幅に減少した反面、長時間労働や体調不良・職場での人間関係の悩みなど、職場に起因すると思われる理由での離職者が約20%から約43%に増加した。以上のことから若年者への職場での技術教育や指導體制の充実とメンタルサポートや離職相談などの職場定着支援が望まれる。

本学卒業生の約半数は女性であることから結婚後も歯科技工士として働ける職場環境の整備や就業支援も必要である。

卒業後1年以内に歯科技工から離業した卒業生が、その後、歯科技工士として職場に復帰していなかったことから一般企業並みの労働条件や労働環境等の改善が早急に望まれる。